

WEEKLY SIGNAL

2019年6月7日(金) 1477号

上田八木証券株式会社

来週の市場とレート予想

	6/10(月)	6/11(火)	6/12(水)	6/13(木)	6/14(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 900	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 10,300	+ 3,000	△ 6,000	+ 1,000	+ 67,000
資金需給	△ 9,400	+ 3,000	△ 6,000	ト ン	+ 66,000
主要要因	国庫短期証券発行・償還 (3M・6M)		源泉税揚げ		年金定時払い 国債発行(30年)
オペ期日	共通担保 △ 2,700 CP等買入 △ 100 補充供給 + 100				共通担保 △ 700 被災地支援 △ 2,300
オペスタート	共通担保 + 2,500 国債買入 + 7,900				
(日本)	国内総生産(1-3月期改定値) 国際収支(4月)	マネーストック(5月)	国内企業物価指数(5月) 機械受注(4月) 日銀営業毎旬報告(6月10日現在)		
(海外)	米 求人件数(4月) 英 鉱工業生産(4月) 中 貿易収支(5月)	米 PPI(5月) 英 ILO失業率(4月)	米 CPI(5月) 米 財政収支(5月) 欧 ドラギECB総裁の講演 (フランクフルト) 中 CPI・PPI	米 輸入物価指数(5月) 米 新規失業保険申請件数 (8日終了週) 欧 ユーロ圏財務相会合 (ユーログループ、ルクセンブルク) 欧 ユーロ圏鉱工業生産(4月) 独 CPI(5月)	米 小売売上高(5月) 米 鉱工業生産(5月) 米 ミシガン大学消費者マインド指数 (6月) 欧 EU財務相理事会(ルクセンブルク)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.020
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初397兆1,600億円から始まった。その後4日の税・保険揚げや5日の国債発行を主因として大きく減少し、週末7日に392兆2,700億円を越えた。

無担保コールON物は、先週末のやや軟調な地合いを引き継いで始まった。今週から積み期間の後半に入ったこともあり、週末にかけて日銀当座預金における基礎残高・マクロ加算残高の調整を目的としたビッドが徐々に増えていく展開となった。そのため、同加重平均金利は週初3日の△0.060%から日々緩やかに上昇して、週末7日には△0.053%となった。ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.045%~△0.035%の水準で出合が見られた。

欧州中央銀行(ECB)は6日の理事会で少なくとも2020年前半までは政策金利を現状の水準に据え置くこととした。

来週の主な予定は、国内では国内総生産(GDP、1-3月期改定値)の公表(10日)や、国際収支(4月)の公表(10日)などがあり、海外では米CPI(5月)の公表(12日)や、ユーロ圏財務相会合(ルクセンブルク、13日)、EU財務相理事会(ルクセンブルク、14日)などがある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.200 ~ △0.130
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約5,400億円で、週間償還額(約3,400億円)に対し発行超となった。発行市場は、複数の業態から大型発行があったが、案件数は少なく落ち着いたマーケットとなった。市場残高は6日時点で20兆5,000億円弱となり、先週末(20兆2,476億円)から増加した。発行レートは、投資家の運用ニーズに変わりがなく、0%からマイナスでの出合いであった。4日にオファーされたCP等買入れオペは、按分レート△0.001%・平均落札レート0.001%と、ともに前回比横ばいとなった。来週の償還総額(6/10~6/14)は、7,500億円程度となっている。発行市場は、大型発行案件も見込まれるが、今週同様、案件数が少なくやや閑散なマーケットを予想する。発行レートは、投資家は0%以上であれば運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出合いとなろう。CP等買入れオペが、11日に2,500億円程度オファーされる予定である。

<TDB>

今週の国庫短期証券市場は、3M物が先週に比べやや弱含む地合い。6日入札の6M836回債は、最高落札レート△0.1614%(前回債△0.1458%)、平均落札レート△0.1654%(同△0.1518%)と前回債から低下した。一方で3M物は、7日入札の3M837回債は、最高落札レート△0.1363%(前回債△0.1503%)、平均落札レート△0.1443%(同△0.1587%)と前回債から上昇した。

セカンダリー市場では3M物で△0.145%程度での出合が見られた。

来週は14日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GC取引は週初△0.08%~△0.09%で始まり、週央にかけて同水準で推移した。10日受け渡しは前場△0.085%~△0.09%で取引されたが、後場△0.10%近辺までレートが低下した。

SC取引では5年139回債のbidが多く、週前半△0.10%台前半~半ば。10日受け渡しでは△0.20%台半ば~△0.30%近辺の出合いが見られた。その他2年399・400・401回債、5年137・138回債、10年338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352・353・354回債、20年164・165・166・167・168回債、30年59・60・61・62回債、40年9・10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。